

会 告

理 事 職 務 分 担 に つ い て

昭和 41 年度の本会理事の職務分担が下記の通り決定いたしましたのでお知らせいたします。(敬称略)

会 長	佐野 幸吉					
副 会 長	武田 喜三	橋口 隆吉				
専務理事	田畑新太郎					
庶 務	内川 悟	木下 亨	田村純治郎	中司 正夫	山本真之助	
会 計	大中都四郎	俵 信次	手島 雄二	三井 太倍		
編 集	荒木 透	草川 隆次	丹羽貴知蔵	不破 祐	松下 幸雄	
	三ヶ島秀雄	盛 利貞				
企 画	伊木 常世	今富 政平	桂 寛一郎	近藤 八三		
研 究	足立 彰	今井 光雄	海江田弘也	菅野 五郎	田中 実	
	村田 巖	盛 利貞				

第 2 種 講 演 概 要 集 配 付 に つ い て の お 知 ら せ

— 「鉄と鋼」臨時増刊号 (第 11 号) —

本会は第 72 回講演大会より第 1 種講演 (講演論文提出) と第 2 種講演 (講演概要提出) の 2 形式で講演会を開催いたすことになり、会員各位より多数の講演申し込みがありました。

第 2 種講演申し込み案内に際し「鉄と鋼」第 4 号, 5 号, 6 号に第 2 種講演概要集は希望者に有料頒布すると会告いたしました。が、「鉄と鋼」第 11 号 (臨時増刊号) として会員全員に配付することになりましたのでお知らせいたします。

日 本 鉄 鋼 協 会 行 事 案 内

開 催 月 日	行 事	申 込 締 切	会 告 ペ ー ジ
8 月	第 2 種講演概要原稿締切 (第 72 回講演大会) 第 5 回技術講座 鉄鋼の格子欠陥	8 月 31 日	4 月号 N23 5 月号 N39 6 月号 N56
9 月 19—20 (月・火)			
10 月 16—19 (日・月・火・水) 19 (水)	第 72 回講演大会 (鉄鋼短期大学・尼崎) 第 6 回技術講座 (大阪) 将来の製鉄法について 合金元素選定の考え方について		

技術講座開催のお知らせ

本会では、会員はじめ関係各位のご要望により、鉄鋼界にあつて製造、研究の業務に携わる人々が常識として把握しなくてはならないテーマを広く取り上げ、それぞれの権威者から最近の動向、発展の方向についてお話しを願い、討論を行なうために日本鉄鋼協会技術講座を開催してまいりました。

第5回、第6回の技術講座を下記の通り開催することになりましたので多数会員奮つてご来聴下さるようご案内申し上げます。

第5回 技術講座

“鉄鋼の格子欠陥”

日 時 昭和41年9月19日(月)、20日(火) 9:00~16:00

場 所 大和証券ホール(予定)

本講座の特長

- (1) 格子欠陥や転位論に関して全く予備知識のない人にも解るように入門から始める。
- (2) 入門が終つた後、鉄鋼に重点を置いた講義を行なう。鉄鋼に重点を置いた講義は従来あまり行なわれていないから、これは本講座の特長であるといえよう。
- (3) 読んだだけでも解るようなテキストを用意するから、出席できない人もテキストを購入することをおすすめする。

第 1 日

1. 転位論入門 9:00~12:00, 13:00~14:00
東京大学工学部教授 橋口 隆吉君
2. 鉄鋼の点欠陥(不純物を含む) 14:00~16:00
大阪大学基礎工学部教授 藤田 英一君

第 2 日

1. 鉄鋼の点欠陥(続) 9:00~10:00
大阪大学基礎工学部教授 藤田 英一君
2. 鉄鋼の強度の転位論 10:00~12:00,
13:00~15:00
東京大学理学部教授 鈴木 秀次君
3. 質疑応答 15:00~16:00

第6回 技術講座

日 時 昭和 41 年 10 月 19 日(水) 9:30~

場 所 大阪科学技術センター

演題および 1. 将来の製鉄法について 東京大学教授 雀 部 高 雄君
講 師 2. 合金元素選定の考え方について 日本特殊鋼(株)技師長 佐 藤 忠 雄君

第73回講演大会討論会テーマのお知らせ

昭和 42 年 春 季 大 会

来春の第73回講演大会における討論会テーマは、アンケートなどをとつて検討しました結果、下記のように決定いたしましたので奮つてご応募下さるようお願い致します。

なお討論論文の募集要領は追つて会告欄にてご案内いたします。

記

1. 第73回講演大会討論会テーマ

- 1) 鉄鉱石の熱割れに関する問題
(熱割れの機構、試験法、対策、高炉操業におよぼす影響など)
- 2) 純酸素上吹転炉における脱炭反応とその他の反応
(脱炭、脱ケイ、脱リン、脱ガス反応など)
- 3) 薄板の深絞り加工性
- 4) オーステナイトステンレス鋼の高温クリープ中組織変化
- 5) 鉄鋼の格子欠陥

2. 原稿募集方法

「第73回講演大会講演募集」時にあわせ詳細を発表いたします。

図書刊行のお知らせ

鉄と鋼前月号にて下記図書刊行予定をご案内いたしました、「計測部会報告書」が、刊行のはこびとなりましたのでお知らせいたします。なお「高炉製鉄法の理論」は7月下旬刊行の予定で作業を進めております。購読希望者には有償頒布いたしますので、お申し込み下さい。

I. 書名 計測部会報告書 (特別報告書 No. 3) (高炉炉頂ガス分析, 高炉装入原料の秤量)

1. 内容

(1) 高炉炉頂ガス分析

1. 概要

- 1.1 はじめに
- 1.2 意義

2. 実施例

- 2.1 あらまし
- 2.2 各社使用分析計
 - 2.2.1 熱伝導式

2.2.2 吸収方式(MONO)

2.2.3 密度式

2.2.4 赤外線式

2.2.5 プロセス用ガスクロマトグラフ

2.3 Sampling 系

3. 保守

4. 問題点

アンケートのまとめ

イ 高炉と分析計使用状況

ロ サンプル系系の構成

ハ サンプル系構成各部の詳細および特色

ニ サンプルガスの状況

ホ サンプル系系の保守状況

ヘ 設置より現在までの保守状況

計測部会資料一覧表

からなり、各種分析計の性能比較、設置方法、精度の維持保全などを含む諸問題が、鉄鋼各社の実用経験をもとに記述されている。

(2) 高炉装入原料の秤量

はしがき

1. 秤量の目的

- 1.1 原料の装入
- 1.2 原料の切出し

2. 秤量系統

- 2.1 原料の受入
- 2.2 原料の切出し
- 2.3 原料の捲上げ

3. 投入用秤量設備

3.1 鉱石秤量車

3.2 ホッパー秤量機

3.3 コンベア秤量機

4. 秤量機の保守

4.1 精度保持

- 4.1.1 秤量車の簡易検査と精密検査

4.1.2 比較秤量

4.2 秤量車におよぼす軌条の

影響

4.3 防振対策

4.4 防塵対策

4.5 管理図

5. 希望精度と水分補正

5.1 希望精度

5.2 水分補正

6. 故障状況

あとがき

以上は計測部会秤量分科会が発足以来手がけてきた問題であり、鉄鋼各社の実情が詳細にまとめられている。

上記のごとく、この方面の業務に携わる関係者に有意義な指導書であります。

2. 編集 日本鉄鋼協会共同研究会計測部会

3. 頒価 会員 600 円 非会員 800 円 (送料不要)

II. 書名 高炉製鉄法の理論

1. 内容

- 第1章 高炉内におけるガスと原料の運動
 - 第2章 高炉内における分解および還元の諸過程
 - 第3章 高炉内における還元過程の機構と Kinetic
 - 第4章 スラッグの生成、性質およびその炉内諸過程への影響
 - 第5章 高炉湯溜内諸過程の意義
 - 第6章 高炉の熱精算とその利用
- 結論、文献

からなり、理論的な解析と高炉生産の実際的な諸問題を系統的に、かつ詳細に解明したもので、高炉作業に従事する技術者をはじめ、学生の学習書としても有益な文献であります。

2. 著者 A. D. Gotlib (ソ連)

3. 訳者 東京大学教授 館 充

4. 頒価 会員 2,000 円 非会員 2,500 円

5. 発行 昭和 41 年 7 月下旬

申込方法 書名および送付先を明記のうえ、代金同封現金書留にてお申し込み下さい。

申込先 東京都千代田区丸ノ内 1-1 交通公社ビル

日本鉄鋼協会

Tetsu-to-Hagané Overseas 名称変更についてのお知らせ

— Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan —

本会では、わが国の鉄鋼に関する学術・技術を海外に紹介し、わが国鉄鋼業に対する世界の認識を高め、かつ活発な交流を図る目的をもって、昭和36年より鉄と鋼海外版「Tetsu-to-Hagané Overseas」を年4回刊行してまいりました。本誌をさらに一段と充実させ、わが国における最も信頼できる、代表的かつ最高の学術技術誌に発展させるために、本年度より名称を下記のごとく変更することになり、また発行回数も従来の年4回から年6回に増刊することになりました。(巻、号は継続いたします)

記

Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan.

(旧名称 Tetsu-to-Hagané Overseas)



Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan への

論文投稿のお勧め

本会編集委員会では、Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan への会員各位の論文投稿をお待ちいたしております。

従来は原則として、鉄と鋼誌に掲載された論文から掲載論文の選定をしてまいりましたが、優れた研究成果を海外に早期に紹介するには時間がかかりすぎておりましたので、編集委員会では、会員各位が本誌に自由に投稿できるよう、Transactions 論文寄稿規程を設け、昭和41年1月1日より実施いたしております。

講演大会に未発表でも、会誌に未掲載の論文でも投稿できますので、会員各位奮って優れた研究成果をご投稿下さるようお待ちいたします。

なお、寄稿規程は会告N73ページに掲載してあります。

英国鉄鋼協会 World Calendarのお知らせ

— Word Calendar of Forthcoming meetings : metallurgical and related field —

英国鉄鋼協会では上記の World Calendar を発行しており、広く各国の鉄鋼関係者に利用されています。

この World Calendar は鉄、非鉄、生産、加工、各種金属の特性を工学的、技術的、使用目的方面から追究し開催される世界中の会議の情報を伝えています。

本協会会員各位にも有効にご利用いただきたく下記のとおりお知らせいたします。

記

- | | |
|-----------------|------------------|
| 記載内容: 1) 日付 | 6) 申込方法 |
| 2) 場所 | 7) 参加料 |
| 3) 会議のテーマあるいは題目 | 8) 使用国語 |
| 4) 主催団体名 | 9) 前刷や議事録の手配について |
| 5) 問い合わせ先住所 | |

発行回数: 年間 6回

記載形式: 会議は年月日順に記されており、1回の発行ごとに2年先までの会議が 1) テーマ別 2) 開催場所別 3) 主催団体別の3種類の索引によつて整理掲載されます。

会 費: 1年間(1月~12月) — ￡ 5.5s (船便送料含む)

申 込 先: The Iron and Steel Institute,
(World Calendar of Forthcoming meetings),
4 Grosvenor Gardens, London, S. W. I.

「Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan」

論文寄稿規程

- (1) 本協会会員は本寄稿規定に従い、本協会英文誌「Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan」に論文を寄稿することができる。
- (2) 論文は、本誌に載せる前に、ほかの学協会誌およびそれに類する刊行物に欧文（英、独、仏）により発表されていないものに限る。
- (3) 論文は、著者の独創的研究成果を主体としてまとめられたものとし、その研究成果がひろく鉄鋼に関する学術ならびに技術へ寄与すると認められるものでなければならない。
- (4) 論文は、研究目的、研究方法、研究結果、考察（従来の研究との比較検討を含む）結論などが、正確にかつわかりやく記述されているものとする。
- (5) 論文は英文とする。英文は正確であることはもちろん、文章の書き方が学術論文あるいは技術論文にふさわしい格調をもっていることが要求される。
- (6) 論文には必ず 500 語 以内の synopsis を添付する。synopsis は、それによつて論文の要旨が具体的にわかるように書かれていなければならない。
- (7) 英文原稿の本文は、厚手のタイプ用紙（A 4 判）に上下おのおの約 3 cm の余白を残し、27 行詰、ダブルスペースとし、タイプライターをもつて清書する。英文原稿（図、写真、表を含む）は正副 2 通、論文および synopsis の日本語訳各 1 通（本会所定の原稿用紙使用）を提出する。また日本文原稿の左側に英文ページの変り目を書き入れる。
- (8) 論文の原稿の長さは、表を含めてタイプ用紙 30 枚（表は 1 表をタイプ用紙 1 枚とみなす）以内とし、図、写真は原則として 10 枚以内とする。同一事項を図、表両方で表わさない。
- (9) 単位は原則として CGS 単位系を用いるが、電磁気量の場合には MKS 単位系を用いてよい。単位の略記号は国際的慣用に従う。周知でない単位には略記号を用いない。
- (10) 元素名、合金名、化合物名、学術用語などで、本文中にしばしば出てくるものは、文章の短縮を目的として記述の明確さを失なわない程度に、なるべく化学記号その他の略記号によつて示すが、その論文の主題となつている研究の領域で慣用的な短い名称、用語は記号表示しない。略記号を用いる場合には、本文中それが最初に出てくるところでその略記号の意味を明示する。（例）Austenite (γ)………、Lankford value (R)。
- (11) ギリシャ文字、記号、上ツキおよび下ツキ添字などをペン書きするときはていねいに記し、混同しやすい文字、記号はとくに注意して書く。（例 a と α ; P と p と ρ ; O と o と 0 ; Fe^{2+} , P_{H_2O} ）ゴシック、イタリックを指定するときは、その文字の下にそれぞれ \sim 、 — を付ける。
- (12) 数式は印刷に便利のように注意し、 a/b , $(a+b)/c$ のように、不明確にならない程度になるべく少ない行数で表わすように書く。また数段にわたる複雑な数式はタイプでなくペン書きとする。
- (13) 表、図、写真には別々に通し番号および説明文を付ける。その説明文のみによつて表、図、写真の意味が理解できる程度に簡潔に書く。写真には必ず倍率を記入する。
- (14) 図および写真は横の刷り上がり寸法が下記のいずれかの寸法となるように、刷り上がり寸法の 2~3 倍とし、て下記の縮尺記号を赤字で記入しておく。（イ）横 8cm（縮尺記号 A）（ロ）横 17cm（縮尺記号 B）
刷り上がり後の縦の寸法は 25cm 以下とする。
- 図は厚手の白紙、オイルペーパー、または青色方眼紙を用いて正確に書き、図および図中の文字はローマン体で縮尺を考慮して十分な大きさおよび間隔をもつて正確に書く。
- (15) 表、図、写真は散逸を防ぐため、タイプ用紙と同じ大きさの台紙に貼付し、右下隅に著者名を記入する。表、図・写真は原稿本文中に挿入せず別紙とし、原稿中には右欄外にそれらの挿入箇所を指定する。原稿本文中に表、図、写真挿入箇所を指摘し空白にあげない。
- (16) 参考文献は通し番号を付け、本文の最後に一括して番号順に示し、本文中における文献引用箇所にはその文献の番号（かつこ付き）を上つき小数字で示す。
参考文献は、著者名：雑誌名、巻数、発行年度、号数、ページ数 の順に記載する。
（例）R. K. Grass: *Blast. Furn. & Steel Plant*, 64 (1958), 2, 198-204.
雑誌名は付表の略記例に従う。単行書は著者名：書名、（発行年度）ページ数、[出版社名] の順に記載する。
- (17) 寄稿論文の受理年月日は、原稿が本協会に到着した日付とする。論文の内容の主要部が本協会講演大会あるいは会誌「鉄と鋼」で発表されている場合には、その講演論文または論文を脚注として示す。
- (18) 寄稿論文は編集委員会において審査される。審査の結果、修正、加筆、削除などが要求され、原稿をいつた人著者に返送することがある、その場合修正原稿を 1 カ月以上経過して協会に再提出したときは、新規提出とみなされる。
- (19) 掲載論文については希望に応じ、所定の料金で別刷を作製する。

英国鉄鋼協会秋季総会のお知らせ

THE IRON AND STEEL INSTITUTE Autumn General Meeting, 1966 Draft Programme of Conference on "IRONMAKING TOMORROW"

Tuesday, 22 November

Morning Session

SESSION A - INTRODUCTORY (45 min.)

An introductory lecture (without discussion) defining the scope of the Conference, and ranging over the subject matter of the subsequent sessions.

Lecturer: Mr. E. W. Voice (BISRA)

SESSION B - THE CHALLENGE OF RAW MATERIALS AND MARKETS (1½ hours)

1. The economic aspect and potential supplies of ore and fuel.

Author: Mr. T. Dennison (BISF)

2. Technical and economic considerations affecting the optimum size of plants.

Author: Dr. A.H. Leckie (Iron and Steel Board)

Afternoon Session

SESSION C - THE INFLUENCE OF BURDEN PREPARATION AND OTHER OPERATING FACTORS ON IRONMAKING (2½ hours)

A series of short papers illustrative of the best world practice using sinter, pellets, fuel injection, high top pressure etc., stressing screening and physical preparation of burden materials.

Authors: Mr. K. R. Haley (Armco, USA)

Dr. G. Heynert (Phoenix-Rheinruhr, Germany)

Mr. R. W. Stenlake (Australian Iron and Steel Co.)

Mr. A. Vroege (Hoogovens, Netherlands)
Author from Nippon Kokan K.K., Japan.

(Papers to be presented individually. Discussion opener to act as rapporteur, and present synthesis of conclusions).

Wednesday, 23 November

Morning Session

SESSION D - CONTROL AND AUTOMATION OF THE PROCESS (Sinter Plant and Blast Furnace) (2½ hours)

Two papers, dealing with improved control achieved to date and potential developments, with indications of obstacles to future development and applications:

1. The sinter plant (to include bedding and blending).

Author: Monsieur A. Bragard (CNRM, Belgium)

2. The blast furnace.

Authors: Messieurs J. Michard, A. Rist, and Staib (IRSID, France)

(Each paper to be presented and discussed individually)

Afternoon Session

SESSION E - NEW DEVELOPMENTS IN IRONMAKING (1¼ hours)

1. Prereduction, covering reasons for its use, methods, and influence on furnace performance (including reference to direct reduction processes when used as blast-furnace burden material suppliers).

Author: Monsieur J. Astier (IRSID, France)

2. Rival processes, covering hot-metal processes (DORED, El-kem, etc.) and solid-state processes (SL, ESSO, etc.) used to avoid the blast furnace.

Author: Mr. U. Kalling (Sweden)

SESSION F - CHALLENGES TO THE ENGINEER (1¼ hours)

One paper, dealing with the challenges presented to design and operational engineers in achieving perfect operation, using the processes and techniques described in the preceding sessions.

Author: Mr. G. B. R. Feilden (Davy-Ashmore Ltd.)

Papers

All papers to be preprinted; manuscripts requested by 31 July 1966.

Proceedings (papers and discussion) to be published in Special Publications series.